

まちなかアートプロジェクト

まちなかアートバー (A. 旧藤BAR)

9/9(土)ー18(月)10~16時

地元の人や訪問者とアーティストによるわいわいコミュニケーションと漂流物などを素材にした作品展示。(写真、オブジェ、光 etc.)

・ドリンクバー: 9/16(土)17(日)11時~14時

まちなかアートショップ (B. 旧高田酒店)

9/9(土)ー18(月)10~16時

小さなアートグッズ販売や漂流物(陶片、シーグラス、プラスチック片、貝殻、小石など)でプチアクセサリーのワークショップも行います。

・ワークショップ(東村幸子)9/17(日)10~16時

まちなかアートギャラリー (C. 旧田中家具)

9/9(土)ー18(月)10~16時

日本海から流れ着いた漂流物で、対岸の地に思いを馳せ、「韓国・中国・日本」を展望する「現代の考個学」、写真・漂流物などによるインスタレーション。

・ウキウキプランター、ランプシェードの販売(売り上げは海岸清掃に使われます)
・アースアートワークショップ

「地球をつくらう」(池田修造)9/17(日)10~16時

●参加アーティスト 岡本タロー 池田修造 中前寛文 溝淵真一郎
東村幸子 阪井義彦 沖佐々木節幸 太田敬二

日本海 × アート × 漂流

「日本海 × アート × 漂流」ー 大地は器 ー

丹後半島では多くの漂流物が海岸に打ち寄せられる。漂流物の多くは冬の季節風と海流によって漂着する。この大地の営みは太古の昔からヒト、モノがこの海岸を漂流してきて成り立ったのだろう。この50年ぐらい前まで、今のようなプラスチックや発砲スチロールなど、人間が大量に造りだした物質はなかったのである。当時は木造船の残骸や魚の死骸ぐらいで、公害のイメージはなかったのではないかと、そもそも海から得るのは多くの魚貝類や海藻など人間が生きるための食材なのであり、豊かな海であったのである。また古代では先進的な知識や技術を持った渡来人がこの丹後の地に訪れ、私たちが当たり前のように使っている文字や天文学の知識、それに今の丹後ちりめんにつながる機織りの技術などは丹後で受け継がれ、日本中に広がったのかもしれない。かつて一大産業であった丹後ちりめんは、日本遺産に認定され、丹後ちりめんのストーリーを考えるきっかけとなった。現在の私たちが何を考え、何を選択するのかにより、100年後、1000年後の丹後が決まると言っても過言ではないくらい、大きな分岐点にきている。幸い、京都はアジアの文化を色濃く発展させた地であり、「海の京都」として丹後の役割は大きい。今回の「日本海 × アート × 漂流」は、現代の「考個学」と位置づけ、海岸の漂流物を拾い、見えない対岸を眺望しながら「個」の違いを極め、全体と部分を考えるプロセスワークである。



丹後アート会議

ー 大地は器 ー tangoart.jp

アートプロジェクト 2017年9月9日(土)ー18日(月) 京丹後市峰山町

主催・お問い合わせ: 丹後アート会議事務局 ヒカリ美術館内 mail@hikaribijyutukan.com



tangoart.jp